

〔お話〕 ー価格協定と価格破壊ー

ガソリンのほかに価格協定されているものには、お酒やたばこがあります。これらのねだんは、国が決めていて、そのもうけの一部が、国の税金ぜいきんになっています。また、さんぱつりょうきん料金もたいていの店で同じになっています。これは、さんぱつ屋さんが入っているグループくみあい(組合)で価格協定をしているからです。

ところが最近は、ガソリンスタンドの中に、それでも安売りをするとところがあらわれてきました。ガソリンを作る会社がスタンドに売るねだんが安くならないのに、そんなに安売りをしてもスタンドはやっていけるのでしょうか。

たいていの場合、ガソリンを安くする代わりに、窓まどをふいたりはいざらをそうじしたりするサービスをなくして、そのために必要だった従業員じゅうぎょういんをへらし、必要経費ひつようけいひを少なくする努力をしています。でも、それでもやっていけなくなったスタンドが、だんだんとつぶれていっている地方もあるようです。

このように、今までだいたい決められていたねだんがくずれて、安くなるようなできごとが、ガソリンに限らずいろいろなものでおこっています。これは価格破壊かかくはかいといわれています。価格破壊が進むと、わたしたちにとってはありがたいのですが、お店の人はたいへんです。